

# 令和3年度 学校図書館評価シート

足立区立栗原小学校 校長 田中泰徳

## 1 学校図書館の現状（今年度末）

蔵書状況	① 蔵書数 10723 冊（蔵書基準冊数 7960 冊） / 蔵書率 134.7%（前年度 114.7%）									
	② 新規購入図書 580 冊 / 廃棄図書 281 冊 / 増減冊数 299 冊									
分類	総記0類	哲学1類	歴史2類	社会3類	自然4類	技術5類	産業6類	芸術7類	言語8類	文学8類
蔵書構成割合	1.6%	0.5%	5.3%	6.1%	10.2%	4.3%	1.8%	6.6%	2.0%	61.5%
*国基準	6%	3%	16%	10%	16%	6%	5%	8%	5%	25%
利活用の状況	① 開館時間：授業時、火曜日（中休、昼休、放課後）、金曜日（中休、昼休、放課後） （前年度からの変更あり）									
	② 児童一人あたりの年間平均貸出冊数 37.7 冊（前年度：50 冊）									
	③ 1か月に2冊以上借りている児童 74.6%（前年度：66%）									

## 2 学校図書館基本計画「学校図書館の目標・ねらい」の達成状況（今年度総括）

- ・読書に肯定的な回答の児童 87.7%（84.1%）
- ・各学年目標読書冊数達成児童（1年100% 2年100% 3年100% 4年100% 5年90% 6年32%）
- ・調べる学習コンクール出品数 184人

## 3 今年度の重点指導事項・具体的取り組み、及び成果目標の達成状況

第1学年	①学校図書館の利用の仕方の基本的な知識・技能・態度を培い、喜んで資料の活用ができるようにする。 ②易しい読み物に興味を持ち楽しんで読書しようとする態度を育てる。 ③読書を通して豊かな心情を育てる。
------	--

今年度の成果目標	達成基準
①学校図書館を使う授業により、本を手にとる機会が増える。 ②学校図書館の本を利用し、読書をする経験を重ねる。 ③学校図書館の利用の仕方について知る。	①各クラス週1回以上、読書等の授業を学校図書館で行う。 ②年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した学級100%

目標達成状況
① 各クラス週1回以上、読書等の授業を学校図書館で行った。 100% ② 年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読んだ。 100% ③ 学校図書館オリエンテーションを実施した。 100%

第2学年	①学校図書館の利用の仕方の基本的な知識・技能・態度を培い、喜んで資料の活用ができるようにする。 ②易しい読み物に興味を持ち楽しんで読書しようとする態度を育てる。 ③読書を通して豊かな心情を育てる。
------	--

今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本を探して、読書することができる。 ②図鑑や科学的な読み物について読書し、その内容を友達に伝えることができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書することができる。	①各クラス週1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読む。 ③ 学校図書館オリエンテーションを実施した学級100%

目標達成状況
① 各クラス週1回以上、読書等の授業を学校図書館で行った。 100% ② 年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読んだ。 100% ③ 学校図書館オリエンテーションを実施した。 100%

<b>第3学年</b>	①進んで学校図書館を利用する態度を培い、楽しく資料や情報を集め、活用できるようにする。 ②いろいろな読み物に興味をもち幅広く読書しようとする態度を育てる。 ③読書を通して豊かな心情を育てる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
①野球に興味のある児童が、他のスポーツの本にも親しむ等、自分の興味のある本だけでなく、それに関連する本についても読書する意欲を育てる。 ②辞典や図鑑等から分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書ができる。	①各クラス週1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した学級100% ④調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が90%

目標達成状況
①各クラス週1回以上、読書活動や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ②年間80冊以上（月間一人あたり8冊以上）の本を読む。100% ③学校図書館オリエンテーションを実施した。100% ④調べる学習コンクールへ参加した児童はいなかった。（参加は任意とした。）

<b>第4学年</b>	①進んで学校図書館を利用する態度を培い、楽しく資料や情報を集め、活用できるようにする。 ②いろいろな読み物に興味をもち幅広く読書しようとする態度を育てる。 ③読書を通して豊かな心情を育てる。
-------------	---

今年度の成果目標	達成基準
①自分の興味のある本だけでなく、今まで興味のなかった本についても読書することができる。 ②辞典や図鑑等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の利用の仕方を守りながら、読書ができる。	①各クラス週1回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間60冊以上（月間一人あたり6冊以上）の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した学級100% ④調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が90%

目標達成状況
①各クラス週一回以上、読書活動や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ②年間60冊以上（月間一人あたり6冊以上）本を読んだ。100% ③学校図書館オリエンテーションを実施した。100% ④調べる学習コンクールに、100%の児童が参加した。

<b>第5学年</b>	①積極的に学校図書館を利用する態度を培い、計画的に資料や情報を集め、適切に活用できるようにする。 ②適切な読み物を選び、考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 ③読書を通して広い視野を身につけさせるとともに、豊かな心情を育てる。
<b>今年度の成果目標</b>  ①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめることができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考えることができる。	<b>達成基準</b>  ①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間40冊以上（月間一人あたり4冊以上）の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した学級100% ④調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が90%
<b>目標達成状況</b>  ①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行った。 ②90%の児童が年間40冊以上（月間一人あたり4冊以上）の本を読んだ。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した。100% ④調べる学習コンクールに98.5%の児童が参加した。	

<b>第6学年</b>	①積極的に学校図書館を利用する態度を培い、計画的に資料や情報を集め、適切に活用できるようにする。 ②適切な読み物を選び、考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。 ③読書を通して広い視野を身につけさせるとともに、豊かな心情を育てる。また、これからの生活に役立てる。
<b>今年度の成果目標</b>  ①興味のある事柄について、適切な本や新聞等を選び、読書することができる。 ②複数の本や新聞等から分かったことをまとめ、説明することができる。 ③学校図書館の利用の仕方について、より利用しやすい方法について考え、友達に伝えることができる。	<b>達成基準</b>  ①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行う。 ②年間40冊以上（月間一人あたり4冊以上）の本を読む。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した学級100% ④調べる学習コンクールに参加する学年児童の割合が90%
<b>目標達成状況</b>  ①各クラス月2回以上、読書や探究活動の授業を学校図書館で行うことができた。 ②年間40冊以上の本を32%の児童が読んだ。 ③学校図書館オリエンテーションを実施した。100% ④調べる学習コンクールに96%の児童が参加した。	

## 4 学校図書館環境整備に関する取り組み成果・効果

### 【蔵書・配架等に関すること】

- ①各学年、専科、図書ボランティアに図書の購入希望を聞き、5月までに学校図書館部で選書することができた。
- ②国語の教科書に掲載されている本、英語に関する本を購入した。
- ③学級用図書としてまとまった冊数を配置し、支援員と連携しながら夏休み中に本の入れ替えを行った。1年生は2月にもう1度入れ替えを行った。

### 【学校図書館支援員との連携・協働】

- ① 授業で使用する図書資料の収集を依頼し、よりよい授業づくりを目指した。
- ② カウンター付近や本棚に行事や学習内容等に関連したおすすめの本を置いた。
- ③ 支援員勤務日の休み時間・放課後に図書室を開放し、本の貸し借りを行った。

### 【その他】

- ① 通常時の貸し出し冊数は一人2冊まで、長期休業中（夏休み、春休み）の貸し出し冊数は一人3冊までとした。
- ② 図書委員会の児童とともに、休み時間に図書の整理を行った。
- ③ アンケートの読書に関する項目への肯定的な回答が増えた。

## 5 学校図書館運営に関する全体評価（自己評価）

昨年度よりも一人当たりの貸し出し冊数が減っている。昨年度の方が冊数が多かったのは、年度当初の休校期間中にも開館し、借りることができたためだと考えられる。一方、今年度2冊以上借りている児童は増えた。このことから、読書をたくさんしている児童とそうでない児童の2極化がすすんでいると考えられる。

蔵書状況から、アンバランスな蔵書だということが分かる。国基準の蔵書構成割合に近付けることが必要である。

## 6 学校図書館の取り組みに対する評価・要望等（外部評価）

※今年度も感染症対策のため、開かれた学校づくり協議会が開催できず、外部評価は行わなかった。

## 7 今後の展望 —課題や問題点への改善・対応方針を踏まえて—

国基準の蔵書構成割合に近付ける選書をしなければならない。特に0, 1, 2類が少ないので増やしていく。そうすることで、児童が手に取りたい本を増やすこと、読書の幅を広げること、図書館を情報センターとしての機能を充実させることにつながると思う。

一人一台のタブレット端末が導入されたが、図書館を活用した授業を実施する機会を確保していきたい。そのために、図書支援員と連携を図り、今年度レファレンスがあった学年の図書資料のリストは保存しておき、来年度以降も活用していく。